

1 単元名 「つたわる 広がる わたしの生活」～わたしたちのまちのひみつをつたえよう～

2 児童の実態

児童は、生活科の時間を楽しみにしている。春から行ってきた「まちたんけん」では、いろいろな場所に探検に行くのを楽しみにし、行った先でもさまざまな発見をしてくる児童が多い。また、探検後のまとめでは、自分なりに考えた方法で見つけたひみつをまとめたり伝えたりすることができた。しかし、探検先で聞いたことをメモに取ることがまだ難しく、探検には意欲的にいくものの、帰ってきた後で見つけてきたひみつを思い出して書くことが難しい児童や、まとめる段階で何を伝えたらよいのかわからなくなってしまう児童もいる。このようなことから、自分が知りたい、伝えたいという思いを大切にし、自分の思いを自信をもって表現することができるよう取り組んでいるところである。

3 ESD の視点に立った学習指導について

(1) 教材について

本単元は、今までの学習を振り返り、気づいた地域の良さについて伝え合う活動を行い、互いのことを理解し合ったり、心を通わせたりしてかわることを楽しさが実感としてわかり、身の回りの人々と進んで交流できるようにすることを目指している。

児童は、春に笹原川の千本桜、6月に図書館や給食センターなどの公共施設やその付近、夏休みに家の近く、そして9月に学校周辺と、地域の様々な場所を探検してきた。一連の町探検を通して、自分たちが住んでいる地域について知り関心を持ったり、地域にある場所や住んでいる人などの素敵などところ気づいたりすることができた。そこで、今までの学習を振り返り、自分の心に残った地域の場所や出来事、人などについて、感じたことや気づいたこと、わかったこと、考えたこと、もっと知りたいと思ったことなどを自分なりの方法でまとめ、交流する活動を行う。学習の過程の各段階で、友達と交流する活動を取り入れ、お互いの良いところを認め合ったり、アドバイスし合ったりすることで、自分の思いを自信をもって表現したり、進んで交流したりすることができるようになると考える。

(2) 持続可能な社会づくりとの関連

児童にとって、今住んでいる場所は将来「ふるさと」となる場所である。町探検を通して見つけたり感じたりした地域の良さは、3年生以上で学習する総合的な学習の時間の学習の基礎となり、さらに発展していくものと考え。自分が住んでいる地域には豊かな自然があるとともに温かい人々がいること、みんなで大切に守っているものがあること、地域の人々が関わり合って生活していることなど自分が育った地域の良さを知ることが、児童の誇りとなり、将来にわたってずっと大切にしたいものとして残っていくと考える。大切にしていきたいという思いはそのために自分ができることを考え実行していく力につながるだろう。

なお、本単元を含める「まちたんけん」の学習では、地域の自然が豊かな場所や公共施設など、様々な場所を訪れ、さらに自分が行ってみたい場所を選んで探検を行う。その活動を通して、児童は、今まで知らなかった様々な発見をすることだろう。探検後に自分が見つけたひみつを友達と伝え合う活動を行うことにより、地域にはいろいろな場所や自然があることや、いろいろな人々がいること、昔から大切にしてきたものや人と人とのつながりがあることなどに気づかせたい。これは、「持続可能な社会作りの構成概念」のうち、「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」「Ⅲ連携性」に当たると考えている。

(3) 本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

自分の思いや考えを友達に伝えたり聞いたりして、良いと感じたことやもっと良くするために気づいたことなどを、相手に伝えたり受け止めたりする力

＜さまざまな人や社会、自然などのつながりを尊重する態度＞

町探検で出会った場所や人、出来事などを思い出し、その中から自分が伝えたいことを考えたり、地域の良さに気づいたりする力

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて、主体的・計画的に取り組む態度＞

伝える相手に合わせて、伝えたいことを考えたり工夫してまとめたりしようとする力

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

- ① 探検の写真や自分がまとめたものなどを使って春からの町探検を想起させるとともに、すてきだなと思ったことや心に残っていることなどを友達と交流させることにより、「伝えたいこと」は何かを考えさせる。
- ② まとめ方をいくつか提示することにより、自分に合った方法でまとめられるようにする。
- ③ 相手意識を持たせるため、誰に何を伝えたいのかを考えさせ、まとめたり発表の練習をしたりさせる。
- ④ 発表は、児童同士で練習をさせ、まず他学年の児童に伝える機会を設定する。その後、白方を知らない大人の人に発表するようにさせる。発表を聞いてもらった人に、伝わったかどうかの簡単な評価と感想を書いてもらうカードを用意し、自分が行った活動の足跡を残すようにする。

4 単元の目標

春からの町探検をふりかえり、自分の心に残った地域のひみつを伝えたいという思いを持ち表現する方法を考えたりまとめたりする活動を通して、地域の良さや身近な人々に関わる楽しさがわかり、進んで交流することができる。

5 指導計画と評価規準（総時数 10時間）

本単元に関わる前単元名	関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
4～6月 8時間 『どきどきわくわくまちたんけん』	<u>身近な地域の人々や様々な場所に関心を持ち、探検の計画を立てたり、「まちのひみつ」を見つけていたりしている。</u> ＜主体的・計画的＞	行きたい場所を決め、相手や場に応じた適切な行動や安全な行動について考えて探検をするとともに、見つけたひみつを自分なりに表現し、交流している。	地域には様々な場所があり、多様な人々が働いていることが分かり、 <u>それらと自分の生活との関わり</u> に気づいている。 ＜つながり＞
6月 5時間 『みんなであそぼうまちのしせつ』	<u>身近な公共施設に関心を持ち、ルールやマナーを守って探検したり、施設を支える人々と関わったりしている。</u> ＜つながり＞	公共施設はみんなが使うものであり、みんなが気持ちよく使えるようにするためのルールやマナーがあることを考えて探検し、そこで見つけたひみつを自分なりに表現している。	公共施設には、みんなのためのルールやマナーがあることや、そこで働いている人たちがみんなのために仕事をしたり工夫したりしていることに気づいている。
夏休み 『じぶんのいえの近くをたんけんして、まちのひみつを見つけてこよう。』			
8月～10月 13時間 『もとなかよし まちたんけん』	<u>夏休みに見つけたまちのひみつに関心を持ち、自分が行きたい場所を選んで探検したり、地域の人と進んで関わったりしている。</u> ＜つながり＞	<u>いきたい探検場所を決めてそこに合わせて計画を立てたり、行った場所や人々に話を聞いてわかったことなどを自分なりに表現したり、交流したりしている。</u> ＜交流と協力＞	<u>地域で生活している人々の、地域への思いや大切にしているものなどに気づいている。</u> ＜つながり＞ 地域の良さや、人々と適切に接することができるようになった自分たちの良さに気づいている。

次	時	学 習 活 動	関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
1	1 2	春からの町探検を作品や写真などから振り返り、伝える相手と伝えたいことを決める。	春からの町探検を振り返り、自分の心に残った地域の出来事を友達と伝え合っている。	<u>地域での活動を通して、自分の心に残った地域の出来事を振り返り、伝える相手を考えて、伝えたいことを決めている。</u> ＜つながり＞ ＜主体的・計画的＞	
2	3 4 5 6	伝えたいことをまとめる方法を考え、自分なりに工夫してまとめる。		これまでの学習を振り返り、伝える相手や内容などを考えて、自分なりに工夫して表現している。	
3	7 8	自分の作品を使って、発表の練習をする。	自分の作品を使って、多くの友達と交流している。	<u>伝えたいことが伝わるようにするために、表現方法を自分なりに工夫し、進んで友達と交流している。</u> ＜交流と協力＞	
	9 本 時	自分でめあてを決め、自分の作品を使って、まちのひみつを伝える。	<u>自分が伝えたいまちのひみつを、伝えようとしている。</u> ＜交流と協力＞		地域の良さを伝えている自分の成長に気づいたり、 <u>地域の良さを知ってもらい楽しさに気づいたり</u> している。 ＜つながり＞
	10	お世話になった地域の人に、お礼の手紙を書き、自分が見つけた地域の良さを伝える。	感謝の気持ちや自分の思いが伝わるように、ていねいに手紙を書いている。	<u>手紙の相手との関わりを思い出し、自分の思いが伝わるように、表現している。</u> ＜つながり＞	

6 ねらい

自分の作品を使って、見つけたまちのひみつを伝え、地域の良さを知ってもらい楽しさや周りの人と関わることの楽しさに気づくことができる。

7 指導過程

過程	学 習 内 容 ・ 活 動	時間	○ 指導上の留意点 * ESDの視点に立った留意点 ・ 評価<ESDで重視する能力・態度>
導 入	1 本時のめあてをつかむ。 ㊦ まちのひみつをつたえよう。	2	○ 授業を参観している人たちについて説明し、白方のことを知らない人がほとんどであることを知らせ、白方のことを知らない人に白方のひみつを伝えるという相手意識を持たせる。
活 動	2 自分で今日のめあてを考える。 ・ ○人以上の人に ・ 大きな声で ・ 伝わるようにはっきり ・ 伝わるまで など	5	* 何人の人に伝えるか、どのように伝えるかを考えさせ自分で決めさせることにより、自分で目標を設定させる。 ＜主体的・計画的＞
	3 自分が見つけたまちのひみつを作品を使って伝える。 (1) 友達とペアで伝え合う。	30 (5)	○ 友達と伝え合う活動をさせることにより、自分の発表の練習をさせ、話すことに自信を持たせる。 ○ 子どもたちだけでなく、参観している大人にも分かるように活動の仕方を説明し、活動させる。
	(2) 参観している大人の人に、伝える。 ・ ペアで伝えに行く。 ・ 一人で伝えに行く。	(25)	○ 知らない大人の人に話しかけることへの抵抗を少なくするため、最初だけ伝え合いをしたペアと一緒に伝えに行っても良いことにする。 ○ 評価カードには、めあてに対する評価や感想を書いてもらうようにする。また、簡単に短時間で記入することができる形式にする。 * 評価してもらう項目欄に、自分のめあてに関わる項目を記入させ、評価と感想を書いてもらうようにお願いさせる。 ＜主体的・計画的＞＜交流と協力＞ ・ 自分が伝えたいまちのひみつを伝えようとしているか。(発表) ＜交流と協力＞
振 り 返 り	4 振り返りをする。 (1) 発表を聞いてもらった人に書いてもらったカードを読み、伝えたいことを伝えることができたか、自己評価する。 (2) 今日の学習を通して、感じたこと、考えたこと、思ったことなどを書く。	8 (3) (5)	○ 書いてもらったカードを元に、自分が伝えなかったことが伝わったかどうかを自己評価させ、がんばったところやうまくいったところに気づかせる。 ○ 早く書き終わった児童から感想を交流させ、自分の成長や地域の良さを知ってもらう楽しさに気づかせる。 ・ 地域の良さを伝えている自分の成長に気づいたり、地域の良さを知ってもらう楽しさに気づいたりしているか。 (ワークシート・発表) ＜交流と協力＞

(3) 授業研究の様子 (E S Dの視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って)
＜ 導入段階「本時のめあてをつかみ、自分で今日のめあてを考える」＞

何人の人に伝えるか、どのように伝えるかを考えさせ自分で決めさせることにより、
自分で目標を設定させる。 **＜主体的・計画的＞**

相手意識を持たせるため、授業を参観している先生方がどこから来たのかが視覚的につかめるように市町村を表示した日本地図を提示した。また、白方のことを知らない人に伝えるためにはまず何から話せばよいのかやどんな内容を伝えればよいのかを全体で考え、板書し、その上で自分のめあてを決めさせた。



- 全体でポイントを確認したことにより、活動の見通しを具体的に持つことができた。
- 一人一人が自分に合っためあてを考えてワークシートに記入することができた。
- 一人一人のめあてを担当が十分に把握することができなかった。



- ペアで、自己紹介やどこから来たのかを訪ねる練習を行った。その後、先生方にひみつを伝える活動を行った。
全員が、自分から聞いて欲しい先生を見つけてひみつを伝えることができた。

＜ 展開段階「自分が見つけたまちのひみつを作品を使って伝える」＞

カードの評価してもらう項目欄に、自分のめあてに関わる項目を記入させ、評価と感想を書いてもらうようにお願いさせる。

＜主体的・計画的＞＜交流と協力＞

お名前	どこから？
声の大きさ ☆☆☆☆☆	ひとこと おねがいします！
わかりやすさ ☆☆☆☆☆	
じぶんのめあて ☆☆☆☆☆	



- カードに評価を記入してもらうことにより、児童は伝えることの楽しさに気づくことができたようだった。それが意欲につながり、自分から進んで次の先生を探して伝えに行く姿が見られた。
- 先生方だけでなく、途中から参加した1年生を相手に説明をする姿も見られた。その際、相手に合わせて伝えようとする様子が見られ、1年生も熱心に聞き入っていた。
- 伝えることに夢中になり、途中までカードの記入をお願いするのを忘れてしまった児童がいた。全体を見回して、支援が必要な児童をつかむ必要があった。



＜ 終末段階「本時の学習を振り返る」 ＞

ひみつを聞いてもらった先生方に書いてもらった評価や感想を読み返し、本時の活動の自己評価と学習感想の記入を行った。

- 終末に書いてもらったコメントを読み返す活動を入れたことにより、今日の自分のがんばりや成長を実感することができたようだった。

自己評価では、全員が自分で見つけられたひみつを伝えることができたと評価していた。学習感想では、もっともっと伝えなかったという児童や、聞いてくれてありがとうございましたと書いた児童もいた。

最後に、何人かの児童に、学習感想を発表させた。

[illegible]

<ふりかえり>

- 1 つたえたいことを つたえることができましたか。 ★★★★★
- 2 自分のめあては、できましたか。 ★★★★★
- 3 学習日記…かんじたこと、考えたこと、思ったことなどを書こう。

しまいのことや、田んぼの生き物やせいかの
となど「話したり、まぐおどちがれました。
1人のは、2年生のたんじんのせんせいにてわしん
たきさんの先
校の2年生よりはずごし」といわれました。かたがは
もしも 先生に話を聞いてもらって、上にもういっぺん

＜ふりかえり＞

- 1 つたえたいことを つたえることができましたか。 ★★★★★
- 2 自分のめあては、できましたか。 ★★★★★
- 3 学習日記…かんじたこと、考えたこと、思ったことなどを書つて。 ★★★★★

町たんけんのひみつを知らぬ人に言
て、わかりやすかったよ、と言
うれしかったので、もっと言
とおくからきた人にいっはひみつを
おしえられてよかったです。

(4) 今年度の実践の成果と課題

①今年度の実践を振り返って

第2 学年E S D カレンダー										須賀川市立白方小学校		
教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	春がいつばい【2h】(I・II)	ていねいにかんさつして、きろくしよう	だいにことをおぼえたりきいたりしよう	くみ立てを考えて書き、知らせよう	夏がいつばい【1h】(I・II)	つたえたいことをはっしよう	秋がいつばい【2h】(I・II)	わかりやすくせつめいしよう		冬がいつばい【1h】(I・II)	すすんで考えを出し合おう	できごとや気持ちがつたわるように書こう
算数												
生活科(110) 主な体験 地域人材	2年生のテーマ「見つけよう 知らせよう いろいろなひみつ～学校のまわりと自分自身～」 (4～6月) ときどきわくわくまちたんけん【8h】(I・II・②④⑤⑦) (8月～10月) もっとなかなよしまちたんけん【13h】(I・II・②④⑥⑦) (1月～3月) あしたへジャンプ (6月) みんなでつつかうまちのしせつ【5h】(I・VI・③④) (9～10月) 生きものなかなよし大作せん【10h】(I・V・②③⑤) (10月～12月) つたわる広がるわたしの生活【10h】(I・II・V・④⑥⑦)											
							うごくごく わたしのおもちゃや【10h】(I・②④)					
特活		学校をきれいにしよう・愛校作業(V・⑤⑦)				愛校作業(V・⑤⑦)						
道徳										町のじまん(V・⑥)		
音楽												
図工	光のプレゼント(I・②)	ざいりょうからひらめき(I・②)	しんぶんしとなかなよし(I・②)	くしゃくしゃぎゆつ(I・②)						だんだんボール(I・②)	ときめきコンサート(I・②)	ともだちハウス(I・②)
体育												
行事	運動会(V・VI・⑦)	おやつづくり(V・VI・④⑤⑦)				獣医師派遣事業(VI・⑦)	祖父母参観VI(V・②④⑤⑦)					
					スキル	自然・生命	エネルギー・地球温暖化	ともに生きる		ごみ・資源		

2年生の生活科のテーマ

「見つけよう 知らせよう いろいろなひみつ～学校のまわりと自分自身～」

4月、生活科のスタートに当たり考えたのは、「子どもたちは白方のことを意外と知らない。町たんけんを通して、白方のすてきなところを知ってほしい。そして、自分が知ったひみつを伝える楽しさを体験させたい。」ということだった。そこで、1学期から2学期にかけての学習「町たんけん」を計画的に広げていこうと考えた。

1学期は、まず、「学区がどれくらい広くて、どんなものや場所があるのかを知ること」、「探検の仕方を身につけること」「見つけたひみつをまとめて直接伝えることを体験させること」の3つを考えた。

そして、2学期は、「目的を持って探検をすること」「学校から歩いて行くことができる場所にどんな場所やものがあり、人がいるのかを見つけること」「見つけたひみつを自分なりの方法でまとめ、相手にわかるように伝えること」の3つをさせたいと考えたが、まだ漠然としていた。

子どもたちには、見通しを持たせるため、生活科の授業びらきの際に1, 2学期の町探検について概要を話した。

4月 「ときどきわくわく まちたんけん」 笹原川の千本桜の探検

3年生と一緒に、千本桜を見に行った。ここでのねらいは、「すぐ近くにこんなすてきな場所があることを知る」「春を五感で感じる。」だった。見つけたものを記録できるように、2人で1台のカメラをもち、行きと帰りで分担して、見つけたものを撮らせた。探検後のまとめは、自分の撮った写真を使って、A3版一枚にアルバム形式でまとめさせた。

<児童が撮った写真>



<児童作成のまとめ>



写真を切り貼
りし、その周りに
コメントや絵を
描き込んだ。

6月 「どきどきわくわくまちたんけん」「みんながつかう まちのしせつ」

学区全体・公共の施設の探検（岩瀬図書館・給食センター・公民館・駐在所・岩瀬歯科）

1回目の町たんけんは、まずバスで学区全体を走ってもらい、車窓から学区の様子を見させた。その後、公共の施設の探検を行った。図書館と給食センターは全員見学に行き、その他の場所は、自分で行きたい場所を選ばせ、それを元に作った班ごとに探検を行った。

ここでのねらいは、「自分の行きたい場所に行き、知らないひみつを見つけてくること。」そのため、事前に見てきたいことを考えさせ、場所毎のメモ用紙を用意させた。

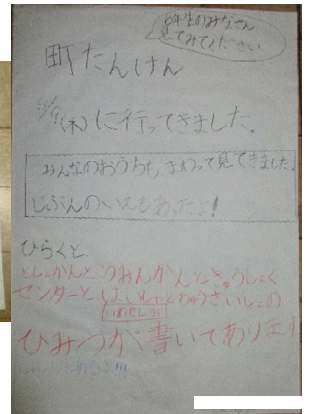
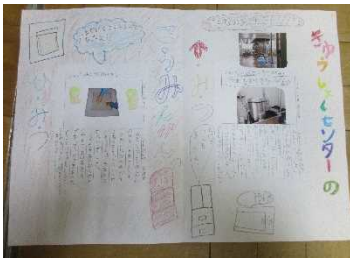
<探検の様子>



- 探検の際に、話を聞きながらメモをとることが難しく、学校に戻ってから覚えていることを書き足させた。しかし、よく覚えていない場所があり、書くことができない児童もいた。メモのとりせ方が次の課題として残った。

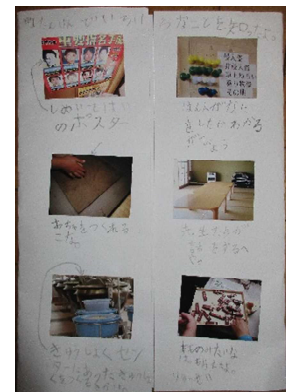
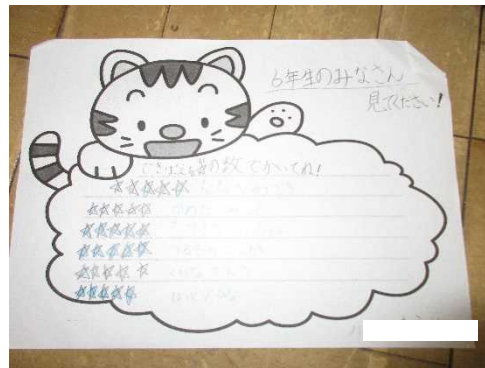
探検のまとめを行う際、「だれに」ひみつを伝えたいのかを考えさせ、伝える相手を決めて、相手にあったまとめ方をすることをめあてとした。まとめる方法は、リーフレット型（国語「たんぼぼのちえ」のまとめで行った方法）やアルバム形式（千本桜のまとめ）、本形式などいくつかの例を提示して、自分ができそうで相手にあったものを選ばせた。また、同じ方法を選んだ児童で班を作り、作業を進めさせた。

<児童の作品>



自分なりの工夫をしてまとめることができた。

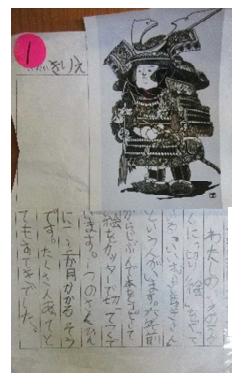
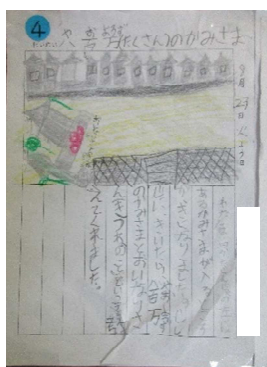
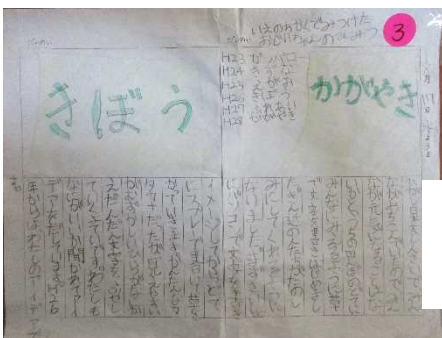
伝えに行く際には、分かったかどうかを5つの☆で書いてもらうカードを用意し、記入してもらった。上級生に聞いてもらい、☆とサインを書いてもらったとうれしそうに話す児童が多くいた。



夏休みの宿題 ～家の近くを探検して、知らなかったひみつを探してこよう。～

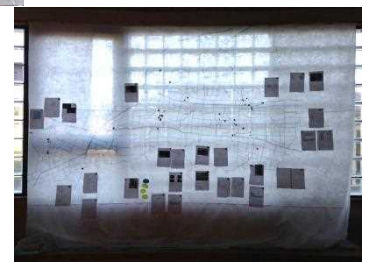
2学期の町探検に向けて、夏休みに家の近くを探検して、ひみつを見つけてくる宿題を出した。7月の懇談会で、ねらいと方法を保護者にも説明し、協力を依頼した。その結果、いろいろなひみつが集まった。

<児童のカード>



児童は、「すごい人」「自然」「昔からあるもの」など、いろいろなひみつを見つけてきた。

夏休み明けに発表会を行い、学区の地図に書いてきた絵日記を貼り、掲示した。2学期の町探検は、その中から行きたい場所や見たいもの、話を聞きたい人など、探検したいことを考えさせ、探検に行くことにした。



9月 「もっとなかよし まちたんけん」 自分が行きたい場所を選んでのまち探検（2回）

まず、自分が探検したい場所（方面）を決めさせ、同じ場所を探検したい児童でグループを作成した。

その後、たんけんのめあて、たんけんに行く場所や順番、約束を自分たちで話し合わせた。探検場所が自分が住んでいる地区とは違うため、行ったことがない児童もいた。そのため、保護者に協力を依頼し、各グループに一人ずつついてもらい、道案内をしてもらった。

探検後は、見つけたひみつをカードに書き発表会を行った。また、拡大した学校周辺の地図に貼り、掲示した。



2回目の探検場所は、ほとんどの児童が1回目の探検の友達の発表を聞いて行ってみたい場所を決めた。探検の計画立ては1回目と同様に行った。探検後のまとめも、1回目と同様に行った。

<祖父母参観での発表>

2学期に行った探検で見つけたひみつの発表を祖父母参観で行った。発表する内容は、児童一人一人が知らせたい内容を組み合わせて作成した。また、児童が伝えたひみつの内容を事前に知っていたかや伝わったかなど、児童が聞きたいことを会場の人たちに判定してもらえるようにし、一方通行の発表にならないように工夫した。児童は、自分が見つけたひみつを知らなかった人がたくさんいることに驚いたり、内容が伝わったと感じたりすることができた。その達成感が、次の学習へとつながった。

11月～12月「つたわる広がる わたしの生活」～わたしたちのまちのひみつをつたえよう～

まず、11月18日に全国から来校した先生方に、白方のひみつを伝えるという目的をつかませた。その上で、4月からの探検を振り返り自分が伝えたい内容を決め、伝えるための作品をどのような形にするかを考えさせた。一人一人が伝えたい内容と伝えるための自分なりの方法を考えて作品を仕上げる事ができた。



作品完成後に、作品を使って学級の友達だけでなく校内の他学年の児童や先生方に伝える練習を行った。その際、本番と同じようなカードを用意し簡単な評価と感想を書いてもらうようにした。児童は、朝の時間や休み時間を使って、意欲的に聞いてもらえる相手を探し、発表の練習を行った。

② 白方小学校のE S Dの視点に立った学習指導で育む能力・態度について

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

- 「町たんけん」を繰り返し行うことで、見学の計画のたて方や見学の仕方、まとめ方などが身についた。行く前に、何を見てくるのかという目的意識を持ち、見学の約束や自分なりのめあてを考えたことができた。また、見学先ではまずしっかりと話を聞き、分からないことはその場で質問することや、聞いたことを後でメモすることなどができるようになってきた。まとめる段階では、誰に伝えるためにまとめるのかを考えて、相手に合わせた工夫をしたりわかりやすくまとめるための工夫をしたりすることができるようになってきた。
- 自分なりの工夫はできるようになったが、友達のアドバイスを取り入れたり、良さをまねしたりすること、もっとよくするためにどうすればよいかということをも自分で考える力は、個人差が大きい。今後は友達との交流の中で、「もっとよくするために」という視点で感想を伝え合う場面を設定していきたい。

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

- 様々な教科で、ペア学習やグループ学習を行ってきた。その中で、自分の考えや気持ちを伝えたり、聞いた感想を伝えたりすることが出来るようになってきた。いろいろな学年や先生方に協力していただいたおかげで、自分の考えを話して受け止めてもらえることの心地よさを感じることができた。声が小さかったりなかなか話すことができなかったりした児童も、伝えたいという思いを持って話すことができるようになってきた。また、グループ毎の探検では、友達を気遣ったり、どうするかを話し合っ

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

- 町探検を通して、地域の良さや自分たちを取り巻く環境の温かさに気づいたりすることができた。
- 今後は更に、自分たちが見つけた地域の良さや温かさを守っていくために、自分にできることを考えたり、実行したりすることができるようにしていきたい。そのためには、町探検で学んだことをこれからの生活や学習につなげていく手立てが必要であると考え

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度＞

- 2年生であることから、学校行事などは一度体験をしている。行事の前には、昨年を思い出させ、活動の内容に見通しを持たせたり自分のめあてを決めさせたりしてきた。また、未知の体験についてもできる限り事前に説明をし、どのような活動をするのかを捉えさせるようにしてきた。その結果、2年生なりにではあるが、自分でたてためあてに向かって見通しをもって一生懸命に取り組む姿が見られた。また、振り返りを行うことにより、うまくできたことやがんばったことを自信につなげられた。
- 学んだことを自分の生活と結びつけて生かそうとする態度は育っていないと感じることが多い。めあてに向かって一生懸命がんばるが、おわるとそこで終わりまた次のことを始めるという感じである。一つ一つが点のままで、それをつなげて生かしていく力をつけるためには、どうしたらよいか課題である。